

A 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒のシャープペンシルで記入することになっています。
黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

一 左の文章は小説の一場面である。「俺」はデンマークの大学に学ぶグリーンランド出身の留学生である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

ジョージはある日授業が終わった後、向こうから話しかけてきた。「グリーンランドから来たのか」と訊くのでうなずくと、嬉しそうな顔をして「友達になろう」と言った。ジョージはアメリカ西海岸で生まれ育ったそうだった。どうしてデンマークに来たのか訊いてみたら、「大国主義に嫌気がさして、小さい国に住みたいと思ったから」と答えた。そうか、アメリカ人は自分の国が大きいと思ってるんだな。他人の頭の中には予想もつかないような考えが詰まっている。会話して引き出してみても初めて、あつと驚くことになる。

グリーンランドはデンマーク本土の約五十倍の面積があるけれど、^(注1)コペンハーゲンに来た俺には「小さい国に来た」という実感は湧かなかつた。そもそも俺は、国という枠組みがまだちゃんと頭に入っていないくて、どこから来たか人に訊かれると初めは「北極圏」と答えて変な顔をされた。

ジョージはいろいろなことを教えてくれた。^(注2)ポストコロニアリズムという言葉は初めて聞いたのも彼の口からだった。それからジョージはこんなことも言った。「エスキモー」^(注3)という言葉は差別語だと思つて、それを単純に「イヌイット」と言い換えて満足している人が多いが、厳密な意味ではすべてのエスキモーがイヌイットなわけではない。^(注4)すべてのジプシーがロマではないのと同じだ。^(注5)^(注6)

エスキモーの語源が「ナマの魚肉を食べる者」だという説が強かった時代には、⁽¹⁾ベツ視した言い方だと多くの人が考えた。それがいつからか、エスキモーは「雪靴の紐を結ぶ人」という意味だという説が優勢になつてきた。「雪靴の紐を結ぶ人」という表現は詩的に響く。アジアには雪靴がトナカイの皮でつくられるとは想像もできないのか、「雪靴を編む人」という意味だと解釈して、勝手に親近感を覚えている人たちもいるそうだ。俺たちの住んでいるところには、藁なんかない。

それにしても「ナマの魚肉を食べる者」という言い方がなぜベツ称なのか俺には理解できなかった。煮すぎてク

タクタになった食材を食う方が、新鮮な肉や魚をナマで食うよりも非文明的だと思う。

(1) ジョージと一度だけ激しい口論になったことがある。「地球の温暖化のせいでエスキモーの狩猟文化が脅かされている」とジョージが言ったのがきつかけだった。俺は急におふくろの生き霊が乗り移ったみたいに、「でも温暖化のおかげで野菜がとれるようになったんだ。昔の生活に固執する必要はないさ」と言った。ジョージが少し驚いて、「でも狩猟文化が君たちの生活文化の中心だったんじゃないのか。それが衰退するのは地球の温暖化と動物保護団体からのプレッシャーのせいじゃないのか」と反論した。俺は今度はおやじの生き霊が乗り移ったみたいに、「もともとエスキモーは狩りが好きだったわけではなくて、必要最小限、動物を殺して、肉を保存食にして大切に食べ、その皮で自分の服や靴をつくっていたんだ。それが外国から乗り込んできた毛皮商人たちにだまされ、脅され、高く毛皮を売れるラッコなんかを殺せるだけ殺す時代が続いた。近くに獲物がいなくなると遠い土地まで遠征した。思い出したくもない悪夢みたいな時代だ。そんな時代が終わって、俺たちはほっとしているんだ」と答えた。おやじがこの話をした時は面倒くさいなと思いつつ片耳で聞き流していたのに、今になって一語一語はつきり蘇よみがえってきたから不思議だ。しかも「俺たちは」なんて偉そうにみんなの代表になって、しゃべっている。ジョージは俺の話す勢いに驚いて、「わかった、わかった。君の意見の方が深いよ」と言って退陣した。

ジョージはエスキモー文化を崇拜していた。カナダ、アラスカ、ロシア、グリーンランドと国境を越えてこれだけ広がる文化は他にない、と言うのだ。雪と氷が文明のかたちをつくってくれるから無理に祖国愛をでっちあげたり、批判的精神の持ち主を非国民扱いして、国をまとめていく必要がない。それに比べてジョージの国は誰もがむさぼれるだけむさぼる競争社会なので、放っておいたら全体がぼろぼろに崩れていってしまう。そこで政治家たちは話術とカリスマ性を磨いてどうにか一つの国にまとめようとしているのだそうだ。

俺はジョージと違って海の向こうの知らない国を批判する動機は全く持ち合わせていなかったし、エスキモーであることに誇りもロマンも感じていなかったが、逆に劣等感も持っていなかった。それがコペンハーゲンで暮らしているうちにだんだん民族3という袋小路3に追い詰められていった。俺を見た人間はすぐに俺をあるカテゴリーに仕分けして

しまう。そしてそのカテゴリーに名前をつけるとしたら、「アジア人」でも「イスラム教徒」でも「有色人種」でも「移民」でもなく、まぎれもなくエスキモーなのだ。屋台でホットドッグを買っておつりを受け取る時には、「君たちエスキモーもこんなソーセージを食べるのか」という小さな驚きが相手の目の中に見える。床屋に行つてカタログの写真を指さし、「こういう風に切つてください」と頼むと、「君たちがこんなアニメの主人公みたいな髪型を好むとは思わなかつたよ」と鉄がつぶやく。クラブでドリンクを注文すると、「君たちエスキモーにはアルコールを分解する酵素が肝臓にないんだらう。こんなもの飲んで倒れるなよ」とバーキーパーの目に書いてある。それで堂々と「やあ、エスキモー君」と声をかけてくれるのならいいのだが、誰もそんなことは言わない。ジャッケンに扱われることはないが、不必要に関わらない方が利口だと思つていよう、目をあわせようとしな。まるで俺の身体をエスキモーと書かれた膜が包んでいて、外からくる視線は膜の表面でとまつてしまい、誰もそれより奥に入つてこれないみたいだつた。

ジョージは語学の授業を最後まで受けないでアメリカに帰つてしまった。「デンマーク語の発音は難度が高すぎていくら勉強してもうまくならない。これ以上努力しても意味がない」と言う。でも、もし世界中で英語を学ぶ人たちが英語の発音が難しいからと簡単に諦めてしまつたら、英語はこんなに普及しなかつただらう。ジョージももう少し努力してみればよかつたのに。

ジョージがいなくなると俺は話し相手がなくなつてしまった。友達がほしい。町で声をかけられることはよくあるが、残念ながら相手はいつも女の子で、どの子もコケモモの実みみたいな真つ赤な唇を近づけてきて、甘い息を俺の顔に吹きかけながら話す。どうやら俺はもてるようだった。まわりの視線に されながら、俺の外貌はだんだん変わつていった。髪を耳が隠れるくらいまで伸ばし、髭や眉は丹念に剃つた。俺の睫は寒さから目を守ろうとみつり生えている。デンマーク人の男性には肌の色がなま白いのを気にして週に一度、真つ裸になって巨大なトースターみたいな機械に身を横たえて肌を焼いている人もいるが、俺の肌には元々金色と茶色と桃色を混ぜたような色がついている。毎朝、鏡を前にして、昔好きだったアニメの主人公みたいな表情を浮かべてみる。

(多和田葉子『地球にちりばめられて』による)

(注) 1 コペンハーゲン——デンマークの首都。

2 ポストコロニアリズム——政治、経済、文化などに残存する西欧中心の帝国主義、植民地主義の影響を明らかにし、現状を変革しようとする思想。

3 エスキモー——チェコトカ半島、グリーンランド、カナダ、アラスカの北極海沿岸、その内陸などに住む人々の総称。カナダではイヌイト、アラスカではエスキモー、グリーンランドではカラーリットと呼ばれる。

4 イヌイト——アラスカからグリーンランドまで北極圏一帯に住み、狩猟生活にもとづいた独自の文化を保持する人々の自称。イヌイトとは現地語で「人間」を意味する。

5 ジプシー——北インドを原郷とし、ヨーロッパ、アジア、南北アメリカに暮らす移動型民族の総称。

6 ロマ——かつてジプシー、ツイガン、ジタンなどと呼ばれた人々の自称。ロマ語で「人間」を意味する。

問

(A) 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) 線部(1)について。「俺」がジョージと「激しい口論」をした原因はどこにあったと考えられるか。その説明

として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 どのようなテーマであろうと相手を打ち負かすことばかり考えるジョージの批評精神が嫌だったから。
- 2 「エスキモー」の文化を神聖化して先入観を押し付けようとするジョージの考えが受け入れ難かったから。
- 3 自分たちが仕方なく営んできた狩猟中心の生活を美化しようとするジョージの無知が許せなかったから。
- 4 狩猟で生き延びるしか術がなかった「エスキモー」の現実を知ろうともしないジョージに腹が立ったから。
- 5 「エスキモー」を可哀かわいそうな弱者に見立てて同情しようとするジョージの独善性に堪えられなかったから。

(C) ——線部(2)について。この言い回しには「俺」のどのような気持ちがかもっているか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「エスキモー」の文化を理解しようとするジョージの言葉を素直に聞けなかった自分を情けなく思う気持ち。
- 2 ジョージとの議論に熱中し「エスキモー」の意見を代弁するような主張をした自分の嘘を恥じる気持ち。
- 3 両親の言葉に耳を傾けなかった自分のなかにも「エスキモー」の血が流れていたことに気づかされた気持ち。
- 4 ジョージを論破するために親の言葉をそのまま真似た自分を自嘲気味に語ってみたいという気持ち。
- 5 人間は少しも思ってもいないことを平気で口にしてしまうものだという事実を露悪的に語りたい気持ち。

(D) ——線部(3)について。ここでの「袋小路に追い詰められていった」とはどのような状況か。本文中の表現を用いて、句読点とも四十字以内で記せ。

(E) 空欄 に入る言葉として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 搾取さく
- 2 浸食
- 3 愛撫あは
- 4 保護
- 5 蠱惑こ

(F) 本文中における「俺」はどのような人物として描かれているか。その説明として適当でないものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「エスキモー」であるという事実は引き受けるが、それに付随する周囲の先入観を受け容れ難く思っている人物。
- 2 自分が相手の目にどのように映るかを過剰に意識するため、友達と気軽に付き合うことができな人物。
- 3 普段は世間の常識やものの考え方を疑う目をもっているが、ときどきむきになって持論を主張する人物。

4 簡単には成し遂げられないような難しい課題であっても、努力を続けることには意味があると考ええる人物。
5 アニメの主人公のような容貌になることで、逆に「エスキモー」に対するイメージを変えようとしている人物。

(G) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
イ コペンハーゲンの街で迫ってくる女の子たちは、「俺」の「エスキモー」らしい外貌にしか興味をもっていない。

ロ 「エスキモー」の語源が「ナマの魚肉を食べる者」であろうが「雪靴の紐を結ぶ人」であろうが、「俺」に
とってはどちらでもよい。

ハ ジョージは、国境を越えて広がる「エスキモー」の文化を崇拜しているから「俺」と友達になろうとした。

ニ 「俺」は、相手がたとえ侮蔑的な意味合いを込めて「やあ、エスキモー君」と声をかけてきても平気だ。

ホ 「俺」に与っては、「エスキモー」という言葉も「イヌイット」という言葉も、差別語であるという点において変わらない。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

(1) 五感¹⁾は歴史的産物である。

たとえば、現代では電車の走行音や発車音は騒音だと思われることが多い。だが、鉄道が誕生したばかりの九世紀末の米国では、その音はモダンで科学技術発達の象徴としても捉えられていた。

目や耳、舌など身体*の*いわゆる感覚器官の働きが、時代によって必ずしも変化するわけではないし、個人が感じ取る身体的刺激*そのもの*には個人差があるかもしれない。だが、ある時・ある場所に生きる人々の間で共有される感覚体験やそれらに対する認識は、技術や経済、社会的要因によって変化しており、時代性を伴うものである。

一九八〇年代以降、欧米を中心に「感覚史」という研究分野が提唱され、感覚は研究対象の一つとして歴史学者や人類学者から注目を集め始めた。五感を歴史的に捉えることは、人々が生きる環境がどのように変化してきたのか、そしてその環境の変化を人々がどのように認識し理解していたのかを考えることである。

つまり感覚の歴史は、存在論および認識論と深く関わる問題である。身体は物理的なモノとして在るだけでなく、文化的なものでもあり、その物理的・文化的構築物としての身体を通して人々は周辺環境を認識するのだ。

「景色」という語は、「景色を見る」のよう¹⁾にしばしば視覚と結び付けられるが、実際には、その場所を訪れる場合には、見るだけでなく、音や匂い、空気感のようなものを感じ取るし、写真など視覚メディアを通してその景色を見る場合であつても、その場の音や匂いなどが自然と想像されることもあるのではないだろうか。

仏教用語で「色^{しき}」とは、広義には五感によって認識される物や現象、それらの総称という意味もある(狭義には視覚で認知される物を意味する)。ならば「景色」が五感で感じ取るもの*のだ*としても納得できるような気がする。五感で感じるものとしての(広義の)景色がいかに作り出され、また変化してきたのか、そしてその景色を人々がいかに感じ、理解していたのかを掘り起こすのが感覚史だといえるかもしれない。²⁾

では、人々の感覚体験・感覚世界はどのように変化してきたのだろうか。まず、産業化や工業化、都市化が急速に進んだ一九世紀末から二〇世紀初頭の米国を例に考えてみたい。^(注1)ヴァルター・ベンヤミンは、交通網の発達や工業化による社会変化を近代化による「ショック」体験だと捉えているが、まさにこの時期は、特に都市部における生活環境・生活様式の変化が人々にとって心身的「ショック」を与えるものだったともいえる。

それは普段の食生活——味覚体験——も例外ではない。一八七〇年代以降、大量生産時代をいち早く迎えた米国では、急速な工業化と市場の拡大に伴い、農業生産者や食品加工業者らは、効率性や標準化に重点を置いた生産の合理化を図ろうとした。

これにより、時季や産地に依らず色や味が規格化された食品の生産が必要となった。そして、トマトやリンゴなどの野菜や果物から、缶詰やマーガリンなど加工食品にいたるまで、どこで購入しても、同じ色、同じ味のものを作られ、食べられるようになったのだ。

たとえば米国フロリダ州のオレンジ。同州で栽培されていた一部の品種は、温暖な気候のため、皮の色がオレンジ色に変化しないまま、実だけが熟することがある。フロリダの生産者らは、緑色の「完熟」オレンジは、たとえ中身が熟していても全国市場では売れないと考え、一九三〇年代初め、合成着色料を用いてオレンジの皮を着色するようになった。

つまり、消費者が期待する味、または消費者が求めているだろうと生産者が考える味に「合致」する色を作ろうとしたのである。だが果物に着色することは自分たちを欺く行為だと考えた消費者からは抗議が殺到した。

ここで興味深いのは、多くの消費者が、熟したオレンジの「自然な」色はオレンジ色であるべきだと考えていたことである。この場合、実際には、緑色の方が熟したオレンジの「自然な（人工的に手を加えていない）」色であるにもかかわらずだ。

いつでも、どこでも、画一化された食品が市場に出回るようになったことで、多くの人々が共有する「あるべき」色という認識が次第に構築されていくと同時に、そうした認識は、翻って生産者らが予測可能で画一的な色

を作るための更なる動機づけとなったといえる。

(注²)
レオ・マルクスが「庭園の中の機械」と呼んだように、農業の工業化・機械化が進んだことで、自然と人工の境界は溶解し、⁽³⁾「自然」とは自然と人工のハイブリッドとして生み出されるようになったともいえるだろう。そしてオレンジのみならず、さまざまな食品の色、そして味が次第に標準化され、スーパーマーケットや食卓の景色が大きく変化したのである。

米国で食をめぐる視覚・味覚環境が大きく変化した二〇世紀初頭は、日本でも新たな感覚世界が生まれた時期である。それは、⁽⁴⁾一九世紀末以降の資本主義社会の拡大が米国のそれとは違う意味を持ち、また異なる形で立ち現れたといえるかもしれない。

明治末から昭和初期は、新しいフードスケープ（食を取り巻く空間・環境）が誕生した時代である。コロツケやトンカツなど当時では珍しかった洋風の料理が広まり始めるとともに、新たな外食文化も生まれた。一九〇二年（明治三五年）には調剤薬局として創業した資生堂薬局（現資生堂）が、アイスクリームやソーダ水の製造・販売を行うソーダファウンテンを店内に開設し、後の「資生堂パーラー」に発展した。白木屋や三越など老舗デパートが食堂を開設したのもこの頃である。

一般庶民には依然として高嶺の花ではあったものの、西洋料理がレストランで提供されたり、雑誌で取り上げられたりすることで、次第に多くの日本人が西洋的な料理を見たり、食べたりし、「近代化」を感覚的に体験していたともいえるだろう。

また、東京や大阪などの都市部では、近代的都市空間が新たな感覚世界を生み出しもした。たとえば、江戸時代に呉服屋として始まったデパートは、従来の日本建築の店舗から西洋風のビルに建て替えられた。東京では、馬車や人力車に代わり、一八九〇年代に路面電車が開通。また大正以降、それまで上流階級層に限られていた洋装が次第にも広まり始め、和服姿の多かった歩道には、最新の洋装と西洋風の化粧で身を固めた「モガ（モダンガール）」や「モボ（モダンボーイ）」が闊歩する姿も見られるようになる。こうした変化は、ファッションス

タイトルや建造物など視覚環境の変化のみならず、電車の走行音や海外の香水・化粧品の匂いなど新たな感覚的景色が都市の一部となったことを意味していた。

このような新たな感覚体験は、さまざまな摩擦や価値観の衝突の中で生まれたものでもあった。電車の登場は、馬車や人力車事業に携わっていた人々から職を奪うことにもなり、実際、車夫からの反発を受けた。「モガ」や「モボ」らは、社会風紀を乱す存在としてそのイメージが広まりもした。激動する社会で、取り残されてしまった人々、その変化をキョウジュしようとする人々、一方で抗おうとする人々の生が、当時の感覚世界から見えてくる。

大量生産時代の視覚の画一化にせよ、近代化による感覚体験の西洋化にせよ、これらは一見すると、資本主義システムの拡大により人間が「本来」持っていた豊かな感覚が単調になってしまったり、日本「本来」の感覚が西洋的なるものに置き換わってしまったようにも見える。だが、歴史を通して人間の感覚は変化してきたのである、「本質」や「本来あるべき」ものとは、レンメンと続く歴史の中で作られるものではないだろうか。

(久野愛「感じる歴史」による)

(注) 1 ヴァルター・ベンヤミン——ドイツ生まれの思想家(一八九二—一九四〇)。

2 レオ・マルクス——アメリカの歴史家(一九一九—二〇二二)。

問

- (A) 線部イ・ロを漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)
- (B) 線部(1)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 人々の感覚器官の働きには個人差があるが、時間の経過とともに収斂してきたということ。
 - 2 人々の感覚器官の働きは徐々にではあるが変化するため、特定の時代に固有の感覚や認識が存在するといふこと。

3 人々の感覚や認識は特定の時代の技術や経済や社会の影響を受けるため、時代とともに変化するというこ
と。

4 技術や経済や社会の変化に直面した人々は、当初はその変化に驚くが、少しずつ新鮮さを感じなくなると
いうこと。

5 技術や経済や社会に対する人々の感覚や認識は、当初は正確ではないが、徐々に正確になるということ。

(C) 線部(2)について。筆者の考える感覚史の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号
で答えよ。

1 聴覚や嗅覚や味覚ではなく、視覚によって捉えた環境の変化に対する認識を考えるもの。

2 環境がどのように変化したかどうかではなく、環境の変化に対する認識を考えるもの。

3 写真から音や匂いが想像されるような、直接的な刺激に基づかない認識を考えるもの。

4 物理的な身体を取り巻いている環境の変化と、環境の変化に対する認識を考えるもの。

5 五感を研ぎ澄まして環境の変化に敏感になることで得られる直感的な認識を考えるもの。

(D) 線部(3)について。「自然」という語を筆者がかぎ括弧でくくっていることの説明として最も適当なも
のを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 農業の工業化が生態系に対して悪影響をもたらしてきたことから注意をそらすため、あえて「自然」とい
う語を用いている。

2 農業の工業化の進展によって、野生の動植物が生息する豊かな環境が失われてしまったため、皮肉として
「自然」という語を用いている。

3 スーパーマーケットに並んだ規格化された食品は、あるべき食品の姿ではないことを浮き彫りにするため
に「自然」という語を用いている。

4 色や味が標準化された「自然」は、当時の消費者にとって違和感を覚えるものであり、期待外れのもので

あつたことを際立たせている。

5 人々が「自然」と感じるものは、あるがままの状態ではなく、人間によって意図的に変更が加えられたものになったことを強調している。

(E) —— 線部(4)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 米国では大量生産時代を迎えたことで消費者による視覚や味覚の体験の画一化が進んだが、日本では視覚や味覚や嗅覚や聴覚の体験の西洋化が進んだ。

2 米国における近代化はこれまでの生活の流れを汲みつつ実現できたが、日本における近代化はこれまで築いてきた日本本来の生活を失わせることになった。

3 米国では視覚と味覚の体験の変化にとどまったために平静に受け入れられたが、日本では米国以上に多くの感覚が変化したために価値観の衝突が深刻になった。

4 米国では農業生産者や食品加工業者による標準化や規格化によって感覚体験が乏しくなったが、日本では新しいフードスケープの誕生によって感覚体験が豊かになった。

5 感覚体験の変化の影響は、米国では農業生産者や食品加工業者による大量生産を通じた合理化によって一般庶民にまで及んだが、日本では富裕層に限られていた。

(F) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 筆者は、仏教用語の「色」という言葉を曲解することで、「景色」という概念を人々が見た風景という意味にとどめることなく、音や匂いや味などを含めた概念として扱うことを提起している。

ロ 米国の農業生産者や食品加工業者が色や味を規格化した食品の大量生産を選択した理由は、専ら消費者の期待に応えるためであった。

ハ 米国フロリダ州のオレンジの生産者は、実の熟していない緑色のオレンジを全国市場で販売するため、合成着色料を用いてオレンジ色に着色した。

ニ 筆者は、和装や車夫のように視覚で認知される景色に日本の独自性を見出^{みいだ}しているため、西洋の流行を追いかけた服装や化粧をしたモガの登場による和装の衰退、電車の登場による車夫の失業を憂いている。

ホ 筆者は、人工的な手が加わる前の自然を感覚史によって明らかにすることで、資本主義システムが普及する以前における人間の本質や本来の感覚を明らかにすることができる^{と主張}している。

三 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

侍従大納言成通卿、そのかみ、九歳にてわらはやみし給ひけり。(1) 年ごろ祈りけるなにがし僧都とかやいふ人を呼びて、祈らせけれど、かひなく発りければ、父の民部卿ことに嘆き給ひて、傍らにそひ居て、見あつかひ給ふ間に、母君といひ合はせつつ、「さりとして、いかがはせむ。このたびは異僧をこそ呼ばめ。(4) いづれかよかるべき」などのたまひけるを、この兎臥しながら聞きて、民部卿に聞こえ給ふ。(5) 「なほこのたびは僧都を呼び給へか」と思ふなり。その故は、乳母などの申すを聞けば、まだ腹の内なりける時より、この人を祈りの師とたのみて、生まれて今九つになるまで、事ゆゑなくてはべるは、ひとへにかの人の徳なり。(7) それに、今日この病ひによりて、口惜しく思はんことのと不便にはべるなり。もし異僧をよび給ひたらば、たとひ落ちたりとも、なほ本意にあらず。況んや、必ず落ちむこともかたし。さりとも、これにて死ぬるほどのことは [] はべらじ。(8) 我をおぼさば、幾度もなほこの人をよび給へ。つひにはさりともやみなむ」と苦しげなるをためらひつつ聞こえ給ふに、民部卿も母上も、涙を流しつつ、あはれに思ひよせたり。

「をさなき思ひばかりには劣りてげり」とて、又のあたり日、僧都をよびて、ありのままにこの次第を語り給ふ。「隠し奉るべきことにはべらず。御事をおろかに思ふにはあらねども、かれがなやみ煩ひはべるけしきを見るに、心もほれて、おぼされむことも知らず、しかしかのことをうちうち申すを知りて、このをさなき者のかく申しはべるなり」。涙を押しのごひつつ語り給ふに、僧都おろかにおぼされむや。(11) その日ことに信をいたしき。泣く泣く祈り給ひければ、きはやかに落ち給ひにけり。(注3)

この君は、をさなくより、かかる心を持ち給ひて、君に仕うまつり、人にまじはるに付けても、事にふれつつ情ふかく、優なる名をとめ給へるなり。すべて、いみじき数奇人にて、世の濁りに心をそめず、いもせの間に愛執浅き人なりければ、後世も罪浅くこそ見えけれ。(注4)

〔発心集〕による

(注) 1 わらはやみ——熱病で、今のマラリアにあたるかという。

2 落ちたり——ここでの「落つ」は、熱や憑きなどが取れる、平癒する^{へいゆ}という意味。

3 きはやかに——みごとに。

4 数奇人——風流人。世俗のことよりも、風雅・芸術を重んじる人。

問

(A) ——線部(1)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(B) ——線部(2)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 この二、三年 2 適齢になるまで 3 年齢にあわせて

4 長年 5 いつもずっと

(C) ——線部(3)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 世話を受けられている

2 もだえ苦しんでいらつしやる

3 直にご覧になってとまどわれている

4 見ていられなくなられる

5 看病なさっている

(D) ——線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 どのように頼むのがよいだろう。 2 誰を呼ぶのがよいだろう。

3 いつ来てもらうのがよいだろう。 4 誰を使者にするのがよいだろう。

5 どこに招くのがよいだろう。

(E) ~~~~~線部(a)～(c)はそれぞれ誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- 1 成通
- 2 僧都
- 3 民部卿
- 4 母君
- 5 異僧
- 6 乳母

(F) ———線部(5)の現代語訳として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 やはり
- 2 いっそのこと
- 3 もう一度
- 4 どうしても
- 5 仮に

(G) ———線部(6)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 良好な師弟関係でありましたのは
- 2 無事でありましたのは

- 3 すなおに成長できましたのは
- 4 迷惑をかけずに過ごせましたのは

- 5 この病が悪くならずに済みましたのは

(H) ———線部(7)は誰のことをさしているか。最も適当な人物を、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 成通
- 2 僧都
- 3 民部卿
- 4 母君
- 5 異僧
- 6 乳母

(I) 空欄 に入る言葉として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 え
- 2 すべからく
- 3 よも
- 4 やうやう
- 5 やをら

(J) ———線部(8)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 私を大人として扱ってくださいるのならば

- 2 私の意向を自己責任として認めてくださるのならば

- 3 私の病状をご理解くださるならば

- 4 私と僧都との前世からの因縁を信じてくださるならば

- 5 私のことを愛しいとお考えくださるならば

(K) ———線部(9)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 そうは言っても引き受けるでしょう。

2 立ち去って辞めてしまおう。

3 誰の祈りであっても満足できるでしょう。

4 いくら何でも治るでしょう。

5 それでも病にかかってしまおうでしょう。

(L) —— 線部(10)について。これはどのような状態を述べたものか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 病を押して父と会話したことで、成通が力なくぼんやりしている状態。

2 成通が僧都の力量を過大評価し、信じ込んでしまっている状態。

3 母君が、病に苦しむわが子をひどく心配している状態。

4 わが子を思うあまり、民部卿夫妻が冷静にものを考えられなくなっている状態。

5 成通のために、僧都が熱心にお祈りをしなければと覚悟している状態。

(M) —— 線部(11)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 おろかだとお間違いになるはずはない。

2 おろかだとお思いになるにちがいない。

3 おろそかにお思いになるはずがない。

4 おろそかにお思いになるにちがいない。

5 おろかにもお間違いになるはずはない。

(N) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 成通は九歳のころ病気になる、自ら僧を呼び寄せて祈らせたがなかなか快復せず、成通の両親はとても心配した。

ロ 両親は、「なにがし僧都」ではない僧にわが子の快復を祈らせようとしたが、成通はそうすることの影響

を見ずえて、それを受け入れなかった。

ハ 「なにがし僧都」に祈らせることにこだわるわが子の幼稚さを感じた両親は、それを僧都本人に伝え、どうするか判断してもらおうことにした。

ニ 「なにがし僧都」は、自分を大切にしてくれる成通のために、心をこめて成通の快復を祈り、みごとにそれをなし遂げた。

ホ 成通は子どものころから情け深く、風流人で、清らかな心をもっていたが、男女の愛情を解せぬ人へと成長したのは望ましくないことであった。

【以下余白】